

# 通信小海

「いつまでも残るもの」

牧師 荒<sup>あらか</sup> 実<sup>まこと</sup>

使徒パウロは、信仰と希望と愛の中で一番すぐれているものは愛だと宣言しています。その理由は、愛が創造主である神様のご性質だからです。私たちが造られた神様は、偉大なお方であり、犠牲を惜しまれることなく、一番大切なご自身のひとり子であるイエス様を地上に遣わされ、創造主なる神様がどのようなお方であるかを顕したださいました。私たちはイエス様がなさった癒しの業や教えや人々に対する言葉と態度を通して、創造主である神様が「神は愛です」と告白すべきお方であることを知ることができま

## 「今月のみことば」

「いつまでも残るものは信仰と希望と愛です。その中で一番すぐれているものは愛です。」Iコリント13:13

す。その最たるものが十字架です。

人間は、イエス様を十字架に架けて殺しました。しかしイエス様は、十字架の上で自分を殺すように叫んだ人々のために、父なる神様に人間の赦しを求めてとりなしの祈りを捧げられたのです。「父よ、彼らをお赦しください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです。」ここに究極の本当の愛が示されました。

現代の私たちが使う「愛する」という言葉には、さまざま概念が含まれ、聖書に語られている愛の本質とはかけ離れた理解や混乱があり、ほとんど意味のない言葉になっていると言っても過言ではありません。

私たち人間は、いのちがけで愛されてもなお「愛が何であるか」が分からないほど自己中心な者です。いつも自

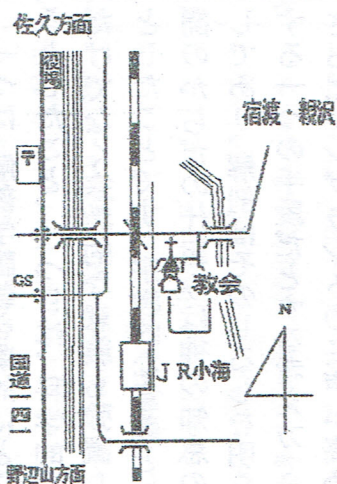
日本同盟基督教団 小海キリスト教会

南佐久郡小海町大字小海四三五・二七

〒三八四・一〇二 電話0267・88・7169

〒振替 00530・0・61683

## 見晴台の教会へどうぞ



## 集会あんない

日曜日 朝礼拝 午前十時から十一時半

夕礼拝 午後八時から九時

金曜日 聖書の学び 午後八時から

\*初めての方も安心してお越しください。

\*個人的な聖書勉強やご相談にも遠慮なくお越しください。

※当教会は、エホバの証人とは一切関係ありません。

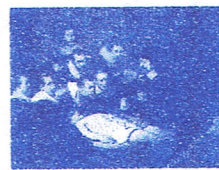
分が満足を得ること、自分の利益が守られること、自分の名誉が守られることを求めて生きています。私たちの内にある愛は、条件付きの愛です。「これだけしたのだから……」と愛した以上の見返りを期待します。与える愛ではなく、奪う愛です。その愛では、本当の意味で幸福になることはできません。

イエス様を信じると、イエス様から無条件で愛されたように自分以外の人に対しても無条件で愛せる愛がいただけます。その愛をもってイエス様のお姿にならない、まず自分から相手を愛していくところに平和な世界が実現していきます。

愛そのものである神様を追い求め、神様との交わりの中でいただいた愛で互いに愛し合う時、現実の生活の具体的な事柄の一つ一つも祝福されます。そして、その愛だけがいつまでも残るものなのです。なぜなら、愛は永遠なる神様のご性質そのものだからです。

## 連載

## 信仰の眼で読み解く絵画



第三章 レンブラント 岡山 教彦 【著】

〈絶頂期後に信仰に目覚めた画家〉

③

レンブラントは一六三一年にアムステルダムに移り住みました。そのころ、彼は既に一流画家としての評判を得ていましたが、いつ注文が来なくなるかもしれないと心配していました。そのために、田舎町のライデンを離れ、絵画を購入できる裕福な市民層が多くいるアムステルダムへと移り住む決心をしました。結果的には、それは大成功となり、偉大な画家への道を踏み出しました。

レンブラントはアムステルダムに移り住んでから、画家であり画商でも

あったヘンドリック・アイレンブルフと親しくなります。彼は、絵画市場で金になることであれば、なんでも手がける人物でありました。彼はレンブラントのために、八人のアムステルダムの外科医の集団肖像画の注文を取ってきました。それが「ニコラース・テュルプ博士の解剖学講義」の集団肖像画で、従来の技法とは違ったレンブラントの技法が評価されることとなります。

一つは、解剖学講義を劇的にとらえようとしたこと。二つ目は、科学的な意義だけでなく宗教的な意義も強調しようとしたことです。宗教的な意義とは、人間のからだの仕組みは神の知恵のしるしであり、解剖はそのしるしを明らかにする一つの手段だとする考え方でした。さらにレンブラントの名声が高められるために決定的だったことは、その絵画が多くの人々の目に触れる場所に飾られたことです。たとえば、宮殿、市庁舎、ギルド（同業者組合）のホールに飾られました。

〈続く〉

## ニチニチソウ

日日草・日々想



一つのからだ

「からだ」というのは、実に不思議で奥が深く、素晴らしい成り立ちであるといづく思います。

小さな細胞の集合体が組織となり、一つ一つの器官が見事な調和を保って一人の人間として生存していることを見るだけで、人体は小さな宇宙だと思えるくらいの感動を覚えるのです。

教会は「キリストのからだ」であると言われ、教会というコミュニティーを人間のからだに例えて語られている聖書の箇所があります。この「一つのからだである」という考えは、あらゆる人間の共同体、どのようなコミュニ

ニティーであつても、その大小や特性に関わらず、一つの軸となる考え方であると思います。

体は、各器官が互いに補い合い、有機的な相互作用の中で機能し、調和し、命を保っています。一つとして不要なものはありません。それは、たくさんのおrganが一つ一つのからだに成り立っているからです。聖書に「もし、からだ全体が目であつたら、どこで聞くのでしょう。もし、からだ全体が聞くのであつたら、どこでかくのしょう。しかしこのとおり、神はみこころに従って、からだの中にそれぞれの器官を備えてくださったのです。」「目が手に向かつて」「私はあなたを必要としない」と言うことはできないし、頭が足に向かつて、「私はあなたを必要としない」と言うこともできません。」と語られている通り、必要のない存在などないという当然の人間理解の基盤となるものではないでしょうか。

ともすると、現代社会においては、分り易く「有能である」という存在には

かり目をとめて、少しの弱さを抱える存在に對して不寛容であるばかりか、切り捨てたり排除したりしようとする傾向が強まっているように感じることがあります。

同じからだの中で排除し合うような分裂があるとしたら、それは病的な状態であることの印です。

ある社会や共同体（学校であれ、一つのクラスであれ、地域の集まりであれ）を「一つのからだ」と考えるなら、やはり一人ひとりが欠けてはならない大切な器官、その存在でなければ果たせない役割があると云えます。どんなに見える部分では劣っているように思えても、その人の存在が欠けてしまったら、そのコミュニティーは不完全なのです。

弱さや欠けのない人など一人もいない。お互いがお互いの存在あつてこそ「一つのからだ」「命」なのだということをおもう時、受け入れ合うこと、支え合うことを促す思いが自然と湧き上がる気がします。

暑らしい  
くすりはい

《今月の処方箋》



◆熱中症にならないために◆

この夏の暑さは異常だと言われ、熱中症による死亡事故のニュースも続き、他人事ではない喫緊の健康課題です。

多くの方が「よく知っている」という事柄ではあるかと思いますが、改めて、熱中症の予防と応急手当についてお伝えさせていただきます。

熱中症は、重症になってからでは手遅れです。時間帯による熱中症の発生状況は、午後1時台から午後5時台の間に約8割が発生し、特に午後3時台から午後4時台に全体の約4割が発生しています。無理な節電はせず、適度にエアコンや扇風機を使用するようにしましょう。

予防は、どこもかくにも、水分を補給し、暑さを避けることです。

●室温28℃を超えないように

●外出には日よけ対策をして、体を締め付けない涼しい服装をする

●のどの渇きを感じなくてもこまめに

（最低1時間に1回は）水分（コップ半分程度）・塩分補給をする

●無理せず休憩、十分な睡眠をとる

●日ごろから栄養バランスの良い食事をとり、（キュウリやトマト、スイカなどのミネラルや水分をたっぷり含んだ夏野菜や果物をすすんで食べる

と◎）体力づくりに心がける  
●応急手当は、

●涼しい場所へ移動し、衣服を緩め、安静に寝かせる。

●水分（塩分を含むもの）補給をさせる。

●エアコン・扇風機・うちわなどで風をあて、保冷剤等で体を冷やす。

●症状が強い場合は臆せず救急車を。

◇脱力感・倦怠感が強く、動けない  
◇意識がない（呼びかけに反応しない、反応がおかしい）

◇全身のけいれんがある



路上生活者支援

山谷（やま）農場

改めてお願いいたします

支援物資の郵送費に充てる未使用切手・ハガキ（書き損じ可）、またごはんと一緒に提供したい焼き海苔（のり）があると腹持ちが違います。この3つを重点的に募りたく、よろしく  
お願い致します。



〈連絡先〉 藤田 寛

TEL 090・1436・6334

FAX 042・786・2088

メール nyoro@beige.ocn.ne.jp

〈物資送付先〉 小海キリスト教会、また

は、南牧村社協へ。〒384・1302南

牧村大字海ノ口966・15南牧村社会

福祉協議会気付 山谷農場

\*着払い送付はご遠慮ください。

\*土曜日の配達指定でお願いします。

山谷農場事務局（藤田）小海町芦谷ヒルサ

イドコーポ一〇二号室 毎週土曜

カンパ：〒振替〇〇二四〇・四・五三七九六